高等学校用

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(　四日市工業高等学校 全日制)

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿		「技術と精神(こころ)」をあわせ持った職業人を育成し、地域にとって必要で愛着をもってもらえる学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○ 礼儀やマナーをしっかりと身につけた上で、主体的に学び、専門的な知識と技術・技能の修得に努める生徒 ○ スポーツ・文化活動等を通じて、個性を伸長し、心豊かな人間性を備えた生徒 ○ 規範意識を持ち社会に貢献できる生徒 ○ 社会の変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題解決ができる能力を持ち、社会人として活躍できる生徒
	ありたい教職員の姿	○ 目指す学校像の実現に向け、保護者・企業・地域等からの要望を受け止め、互いに情報共有を図り、すべての教職員が一体となった教育活動を進めるとともに、意欲を持って教育活動のできる教職員集団 ○ 仕事にやりがいを感じ、自らも成長しようとする教職員 ○ 優れた人権感覚と社会人としての良識に富み、生徒や保護者との間に信頼関係が築ける教職員 ○ コンプライアンスを遵守し、信頼ある教育活動を展開する教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜生徒＞ 生徒の約8割が就職、約2割が進学を望んでいる。進路実現のために資格取得、部活動等における飛躍などを中心とした学校生活の充実を期待している。 ＜保護者＞ 子どもたちの進路実現と部活動等の集団生活をとおした人間的成長を求めている。 ＜企業等＞ 元気で明るくコミュニケーションが図れ、社会に貢献できる生徒が育成されることを期待している。 ＜地域＞ 地域社会の行事などへの生徒の参加、参画による連携や交流を通じて地域活性化への寄与が期待される。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜家庭・保護者＞ 連携・協力のために、学校の取組等を今以上に情報発信してほしい。 ＜中学校・小学校等＞ オープンスクール等により、学校生活の様子、部活動の様子、入学者選抜の情報等を知らせてほしい。 ＜企業・地域等＞ 心身ともに健康な人材が輩出されることを期待している。地域活性化につながる行事等へ参画してほしい。	＜家庭・保護者＞ 本校教育方針を理解と協力、特に社会的役割と責任の自覚を促す指導への協力をしてほしい。 ＜中学校・小学校等＞ 継続的・効果的な指導のために個々の生徒の情報共有をしたい。 ＜企業等・地域等＞ インターンシップ等の連携と協力、専門科目等における技術指導への支援をしてほしい。

(3)前年度の学校関係者評価など		○労働に関する危険予知や事故事例研究といった「就労後の労働安全面に関する教育」について、在学中に一層充実させるべきではないか。 ○増加傾向にあるいじめの防止策として、学校生活アンケートの結果のフィードバックやフォローをおこなうとともに、他校で発生した学校問題やいじめの事案、フィードバックの内容についての情報を共有することが重要ではないか。 ○保護者が授業の様子を見学することで、保護者が子どもの授業での様子について家庭で話したり、学校側と教育の責任を共有したりすることにより、授業の質を高めることをめざしていきたい。
(4)現状と課題	教育活動	○生徒たちは将来のスペシャリストを目指し、専門教科等の学習に努力している。さらに、部活動等でも努力し、優秀な成績を収めている。生徒の自己実現のために、教職員が、学習指導と生活指導の工夫と改善等に努力し、生徒一人ひとりに応じた進路指導を充実することが必要である。 ○企業が必要とする知識・技術力が多様であり、工業教育の到達目標を定めにくい。
	学校運営等	○職員数、職員室の数が多い学校であるが、分掌、工業各科、学年間の連携をスムーズに行い、教職員間での情報共有が図れるよう取り組み、組織として学校全体での取組が円滑にできるようになりつつある。 ○放課後の指導等により、資格取得、ものづくり活動、部活動等において大きな成果を収めている。 ○各種委員会等の会議が多くなり、教員が生徒と関わる時間を確保が必要である。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○「技術と精神(こころ)」をあわせ持った職業人を育成するため、資格取得や就業体験等の一層の充実を図るとともに職業人として必要な力を身に付けさせるための活動を体系的に実践する。 ○価値観の異なる多様な人々と協働していく力の育成や、海外での仕事に対する意欲や関心を高めるために、職業人による技術指導、外国での勤務経験がある職業人の講話などの取組を行う。 ○Society 5.0 の超スマート社会に対応できる資質・能力を育むとともに、生徒一人ひとりの個に応じた学びを行うためにICTを活用した教育環境の整備を推進する。
学校運営等	○地域との連携を密にし、学校との信頼関係を構築する。地域の行事への参加、地域の小中学校への出前授業、学校説明会等を行う。 ○人権教育基本方針をもとに、人権感覚あふれる学校づくりを推進する。 ○部活動における適切な練習時間を定めるとともに、生徒・部活動顧問ともに休養する日を設定(1日/週)する。 ○精選と効率化により会議の時間を1時間以内とする。また、ワーク・ライフ・ バランスの推進を図り、「働きやすい職場」をつくるために業務内容を精査し時間外労働の縮減に取り組む。 ○定時退校日を設けることにより職員が計画的に校務を行うよう意識を高める。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○芸術・文化活動や生徒会活動、ボランティア活動または人権活動等で活躍し、高校生活においても活動する意欲があり、工業に関する学科に興味・関心のある者。 ○スポーツ等においてすぐれた実績があり、入学後も継続して活動する意志のある者。また、工業に関する学科に興味・関心がある者。

高等学校用

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

（例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」： 定期的に進捗を管理する取組　「◎」： 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実と資格取得	1 授業時間の確保や授業改善に取り組み、生徒の学習意欲の喚起や学力の向上を目指します。 【成果指標】 〇やむを得ない場合を除き、時間割変更や、特別時間割編成を積極的に行い、自習課題時間の削減に努めます。 2 ICT教育の推進に取り組み、生徒が主体的・対話的により深い学びができるようにします。また、BYOD端末を利用した学習に取り組みます。 【成果指標】 〇生徒が端末を活用した授業での教員の機器使用に対するサポートを充実させます。 〇BYOD端末に不具合が出た際には、可能な限り当日に対処します。 〇ICT機器とその周辺設備の整備と充実に努めます。 3 工業に関する以下のことに取り組み、次世代のものづくり人材の育成を目指します。 (1) 大会・競技大会 (2) 技能・安全教育の充実 (3) 授業改善週間の実施と教員の相互理解の促進 (4) 地域連携・広報 (5) カリキュラム検討(長期視点) 【活動指標】 (1)ものづくり大会及び各種競技大会への参加並びに東海大会・全国大会出場に向けた指導の実施 (2)技能検定3級程度取得に向けた技能練習及び補習の実施、教員の安全意識向上に向けた研修の実施 (3)授業改善週間の実施(授業研究・相互参観等) (4)地域企業・関係機関との連携及び学校の広報活動の実施 (5)10 年以上先を見据えた工業教育カリキュラムの検討及び改善方針の策定 【成果指標】 (1)ものづくり大会及び各種競技大会への参加を通じて技術・技能の向上を図り、東海大会・全国大会等の	(年度末および適宜記載)	

	上位大会出場者数の増加を図る。 (2)技能検定3級程度の資格取得率の向上を図るとともに、安全講習年 1 回実施、各学科の安全対策の見直しを図る。 (3)実施回数年 1 回以上、授業参観参加率70% ※授業改善週間における授業研究及び相互参観を通して、一般教科と工業科の連携及び教員間の相互理解を深めるとともに、生徒理解の向上と授業改善の充実を図る。 (4)①インターンシップ・会社見学・企業展(企業説明会)の実施、学校説明会をはじめとした校外での活動 5 回以上、ホームページのリニューアル(予算確保でき次第)②学校説明会及び高校生活入門講座の参加者の満足度 95%以上 (5)中長期的視点に立った工業教育カリキュラムの改善方針を策定し、教育課程及び授業実践への反映を図る。		
キャリア教育の充実	【活動指標】 (1)①各学年の進路ガイダンス等において、外部講師を招聘した講義や技術指導を行うとともに、集団討論・集団面接の指導を充実させます。②卒業生との懇談会や工場見学を各科の要望を踏まえながら可能な限り実施します。③地域の産業界と連携した工場見学、就業体験(インターンシップ 等)を実施し、生徒が自ら勤労観、職業観を身につけられるよう取り組みます。 (2)実習の点呼・連絡時に生徒の1分間スピーチを実施し、コミュニケーション能力や心豊かな人間性と個々の伸長を図ります。 (3)保護者懇談会や三者懇談会を通じ、学校理解を深めます。 (4)在学中に成人年齢に達することから、契約等の様々なトラブルに巻き込まれることがないよう指導をおこないます。 (5)生涯にわたって学ぶ資質を養うために、図書館の利用促進図ります。 【成果指標】 (1)就職希望者の就職内定率及び進学希望者の進学100%とします。 (2)アンケートで「身に付いた知識やコミュニケーション能力を主体的に発揮し、成果を実感できる」割合を90%以上とします。 (3)生徒理解のために個人面談を年間3回以上実施、学年通信を年4回以上発行します。 (4)消費生活講座を年1回以上実施します。 (5)年間貸出冊数 4000 冊以上、図書館便りを1回/月発行します。	(年度末および適宜記載)	

人権教育	○様々な人権問題に関心を持ち、 人権意識を高め、主体的に行動できる人材の育成を図ります。自分の大切さとともに他者の大切さを認め、具体的な態度や行動がとれるよう以下の取り組みを行います。 【活動指標】 (1)人権問題についてグローバルな視点を持ち、自ら考え、行動できるように講演会を実施 (2)人権 LHR を 1 学期と 2 学期に全学年で実施(多様性と仲間作り、平和学習、就職に関する差別) 【成果指標】 (1)全学年を対象とした SNS 講演会の年 2 回実施 (2)人権だよりを年3回以上発行	(年度末および適宜記載)	
生徒指導	○基本的な生活習慣の確立について取り組みます。また、社会で必要な礼儀に加えコミュニケーション力を育みます。 ○交通事故防止を念頭に、いじめ防止に努め安全で安心できる学校をめざします。 【活動指標】 (1)挨拶の励行を行うとともに、登校指導を年3回実施します。 (2)規則正しい生活習慣の確立、遅刻のない学校生活を送る事ができるよう取り組みます。 (3)交通事故防止に取り組み、自転車通学の安全とマナー向上、交通ルールの順守を図るため、安全講話を実施します。 (4)いじめ認知を適切に行い未然防止に努めるとともに、早期発見・早期対応を丁寧行います。 【成果指標】 (1)寝坊・自転車トラブルなど不注意による遅刻件数、年間 50 件以下とします。 (2)交通事故発生件数を前年度比50%減に努めます。 (3)ヘルメット着用率を前年度比10%向上に努めます。 (4)・いじめ防止ピンクシャツデーを年2回実施 ・いじめ認知件数を前年度10%増 ・いじめ防止の研修を年2回以上実施	(年度末および適宜記載)	
保健教育	【活動指標】 (1)生徒一人ひとりが感染防止対策を自ら実施できるよう、健康教育に取り組みます。 (2)健康診断の適切な実施と、事後指導を行います。 (3)性やメンタルヘルスに関する講話を行うとともに、安全に関するLHR等必要な教育を計画・実施します。 【成果指標】 (1)「自らの健康を考え、行動に移すことができた」生徒の割合を75%以上とします。 (2)保健便り「すこやか四工」を毎月発行し、自分自身の健康への関心を高めます。	(年度末および適宜記載)	

	(3)生徒保健委員会による保健だよりを年8回以上発行します。		

改善課題
(年度末に記載)

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	【活動指標】 (1)防災・減災の観点から、防災意識を高めるとともに、防災教育・訓練の充実を図ります。 (2)地域・保護者との連携強化のため、PTA役員会を5回以上実施し、PTA会報の発行等による還元を行います。 (3)人権教育を計画的、継続的に推進します。 (4)健康・安全に留意した学校生活・学校行事が行われるよう、校内の連携をすすめます。学校保健委員会を開催し、学校医等の助言を参考に「生徒の保持安全に向けた取組」や「適切な感染症対策」を検討、実施します。 (5)特別支援教育推進委員会を年5回開催し職員が一致して支援を行えるように情報共有を図ります。また、SC、SSW を活用し特別に支援が必要な生徒・保護者等の継続的支援にあたります。 (6)不祥事防止のため、学校信頼向上委員会とコンプライアンス研修をそれぞれ年3回以上実施し、不祥事の防止に取り組みます。 (7)各種協会・組織と積極的に連携を図り、学校教育活動のアピールに努めます。HP更新を中心に行う。(報道提供1回／月) (8)「働きやすい職場づくり」を目指します。会議時間の縮減し、定時退校日を毎月設定します。 (9)部活動計画に則った運営を目指します。 (10)1か月の平均時間外労働時間を20時間以内、年間休暇取得日数の対前年比増を目指します。 【成果指標】 (1)防災デーを設定し、学年別の観点から発達段階における取組を行い、「防災意識が高まった」生徒を90%以上とします。	(年度末および適宜記載)	

	(2)PTA 総会への出席者数10%増とします。 (3)人権教育に関する研修を年2回以上実施し、人権意識の向上に努めます。 (4)学期毎に安全点検を実施し、年度内にすべて危険個所の改善率を100%とします。 (5)SC、SSW から支援を受け改善につながった生徒を前年度比10%増とします。 (6)教員による不祥事事案をゼロにします。 (7)本校の志願者数を前年度比5%以上とします。 (8)60分以内に終了した会議の割合100%とし、定時退校を行った教員を90%以上とします。 (9)計画通り休養日を実施できた部活動の割合95%以上とします。 (10)時間外労働時間が月 45 時間、年間 360 時間を超える教員を前年度比10%減とします。		
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)